

「わたしのほうほう」

鹿児島県 鹿児島市立錦江台小学校 2 年 前田^{まえだ} 琳奈^{りんな}

「土しゃさいがいて知ってる。」と聞かれた。
わたしは、いえが雨でくずれることだと思った。そこで、おかあさんが、えいぞうを見せてくれた。
。 川の水がにごってながれていた。山のおくからざわざわと音がしていた。すると、川のおくから、大雨が土しゃをながしてきた。
「ゴー。」
とひくい音を立てながら、いっしゅんにして川の水のりょうがふえた。川らが見えなくなり、大きな岩や石もながしているみたいだった。まるで、雨の多い日に見る、そっこうのながれみたいだった。そっこうの水のりょうでさえも、体をもっていかれるということは知っていたので、それが川の大きさになると、とてもあぶないと思った。いえがながされるのは本当だと思った。にげられな
いと思った。わたしは、山の近くにすまなければ、土しゃさいがいにあわないんじゃないかと思った。しらべていくうちに、本当にあわないかなと思うようになってきた。
日本ぜん体は山が多く、あちこちで土しゃさいがいがおきやすいと聞いたからだ。かごしまけんにはさくらじまがある。そのえいきょうで土しゃさいがいがおきることだってあることが分かった。
。 土しゃさいがいには三つのしゅるいがあることが分かった。土石りゅう、がけくずれ、地すべり、どれも大雨がかんけいしていて、その大雨は、ゲリラごう雨という名前だった。はじめて知った。
。 また、地しんや火山のふん火でもおきることにおどろいた。
「うちは大じょうぶだろうか。」
そうきかれた時、ぜったい大じょうぶだとは言えないと思った。
そこで、土しゃさいがいぼうしほうほうを考えた。大雨の時は、どんな雨がどれくらいふるか気をつける。あぶないと思ったら早くにげる。そして、これからかぞくで、ひなん場しょをきめよう。これが、わたしの土しゃさいがいぼうしほうほうだ。